

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2372400248
法人名	医療法人 宏友会
事業所名	グループホーム 元気村
訪問調査日	平成19年11月9日
評価確定日	平成19年12月16日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月19日

【評価実施概要】

事業所番号	2372400248
法人名	医療法人 宏友会
事業所名	グループホーム 元気村
所在地	半田市浜田町3-10-5 (電話) 0569-23-1269

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年11月9日	評価確定日	平成19年12月16日

【情報提供票より】(平成19年10月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12年4月1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	18 人 常勤12人, 非常勤6人, 常勤換算5.35人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	3階建ての 2~3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	2階30,000・35,000 3階51,000 円	その他の経費(月額)	26,100 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,300 円	

(4) 利用者の概要(平成19年10月11日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	5名	要介護2	4名		
要介護3	5名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 86.1 歳	最低	58 歳	最高	99 歳
協力医療機関名	竹内整形外科内科クリニック				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体が病院であり、建物の1階には整形リハビリクリニックがあり、同敷地内にデイケアセンターや訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所が併設されている。法人間での連携を密にとり、医療や介護の両面からサポートしている。職員は理念である“ゆったり自由に”入居者のリズムに合わせ、寄り添うケアに努めている。「排泄、入浴、食事」の支援において、本人の希望、状態に合わせたケアを提供することで、“ゆとりのある生活”への実現に向け取り組んでいる。家族との関係も大切にしており、3カ月毎に家族会を開催し、日常の様子を報告したり、要望や相談などを聞き、運営に活かしている。回想法取り入れたケアが行われており、古民具や生活用品、衣服、玩具など家族から寄贈された物を一部屋を利用して展示している。建物は病院を改装しており、ハード面において多少の不便さはあるが、職員はソフト面でカバーし質の高いケアを目指している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	課題として外部との交流を主に取り組んだ。運営推進会議にはショッピングセンターの人や近所の会社にもよびかけた。改善課題については、ミーティングで話し合い、洗剤を鍵のかかる場所に保管するようにした。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価は、外部者にホームを知ってもらえる機会として捉え、ありのままを見てもらい、外部から見た視点を知ることができると考えている。職員には、ミーティングで説明し、職員の気持ちが変わり新しい発見もあった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	メンバーは多種多様な構成であり、会議には職員も順番に出席している。家族には毎回案内を出しており、案内を出すときに議題について応募している。会議では、活動状況や議題について話し合い、今回の外部評価の実施についてや、事故報告書における分析結果などの報告もしている。メンバーからは客観的な意見や助言などをいただいている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	3カ月に1回家族懇談会を開き、ホームに対する意見や要望等を聞いている。家族から出た要望については、ミーティングで話し合い改善に向けて取り組んでいる。検討結果については、運営推進会議や家族会で報告している。面会簿について要望があがり、一覧ではなく個別の面会簿を作成し、来訪者のことを家族はすぐに確認できるようになった。家族アンケートの結果からも良好な関係がうかがえる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近所の店の店員と顔馴染みの関係ができ、声をかけてもらえるようになった。町内会に加入はしているが回覧板や寄り合いなどはない。毎年、中学校に職業説明にホーム長が行っており、小学校からは運動会へ招待してもらっている。ボランティア(尺八、ハーモニカ、読み聞かせなど)の訪問もあり、ヘルパー実習、中学生の職場体験を受け入れている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	今までの生活をホームでも同じように過ごしてもらい、 自由に笑いのある生活を目指したいと考え、「ゆったり 自由に笑って過ごせるように」を理念に掲げている。工業 地域の中に位置し民家が周りにない中、地域とどのよ うに関わり合いをもてるのか試行錯誤しながら進めてい る。		地域密着型サービスの役割を理解しており、 日々入居者本位の支援を実践している。役割や 目的を理念の内容に反映させるなど、理念の見 直しについても検討されることを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念 の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をプリントし、全員に配布している。また、リビン グの入り口の上や職員の更衣室にも理念が掲示され、職 員は常に意識、確認することができる。職員との面談を 定期的実施しており、職員には“焦らない、時間に囚 われない”ことを話し、入居者の行動に職員が合わせる よう努めている。ミーティングでも確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員 として、自治会、老人会、行事等、地域 活動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	近所の店の店員と顔馴染みの関係ができ、声をかけても らえるようになった。町内会に加入はしているが回覧板 や寄り合いなどはない。毎年、中学校に職業説明にホー ム長が行っており、小学校からは運動会へ招待しても らっている。ボランティア（尺八、ハーモニカ、読み聞 かせなど）の訪問もあり、ヘルパー実習、中学生の職場 体験を受け入れている。		工業地域という環境の中、地域との交流につい て積極的に取り組んでいる。地域の人に「グ ループホーム元気村」を知ってもらい、理解し てもらえるよう、自治会の広報を活用できない か検討していることから、さらなる取り組みに 期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	課題として外部との交流を主に取り組んだ。運営推進会 議にはショッピングセンターの人や近所の会社にもよび かけた。改善課題については、ミーティングで話し合 い、洗剤を鍵のかかる場所に保管するようにした。外部 評価は、外部者にホームを知ってもらう機会として捉 え、ありのままを見てもらい、外部から見た視点を知る ことができると考えている。職員には、ミーティングで 説明し、職員の気持ち分かり新しい発見もあった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>メンバーは多種多様な構成であり、会議には職員も順番に出席している。家族には毎回案内を出しており、案内を出すときに議題について応募している。会議では、活動状況や議題について話し合い、今回の外部評価の実施についてや、事故報告書における分析結果などの報告もしている。メンバーからは客観的な意見や助言などをいただいている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>年の始め頃に市の取り組みとして、市の職員による事業所の訪問が実施され、現場の状況を知ってもらう機会になった。書類の提出などで市役所を訪問した際は、相談にのってもらいアドバイスをいただくなど、情報の共有に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>ホーム便りである「元気村メール」を毎月家族に送付している。写真つきで行事や誕生日などが紹介され、来月の行事案内も記載されている。来訪時には、入居者の状況を説明しており、どの職員でも家族に聞かれた場合に対応できるよう、日頃から入居者について情報の共有を徹底している。家族会を定期的に行っており、行事の時に弁当を食べたり、認知症についての理解を深めるため、ビデオを見たりしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>3カ月に1回家族懇談会を開き、ホームに対する意見や要望などを聞いている。家族から出た要望については、ミーティングで話し合い改善に向けて取り組んでいる。検討結果については、運営推進会議や家族会で報告している。面会簿について要望があがり、一覧ではなく個別の面会簿を作成し、来訪者のことを家族はすぐに確認できるようになった。家族アンケートの結果からも良好な関係がうかがえる。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内の異動は入居者へのダメージを考慮し、極力行わないようにしているが、やむを得ず異動する場合や離職する場合には、面会時や家族会などで報告するよう努めている。入居者にも報告しており、新人職員が入るとすぐに紹介している。馴染みの職員が新人職員について指導していることから、職員の異動や離職による入居者へのダメージは少ない。職員のチームワークがよく、活発に意見交換をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、正社員やパートに関わらず参加できるようになっており、パート職員は時間的制約もあるため、勤務内で行けるよう考慮している。法人内や知多南部居宅介護事業者連絡会の研修も定期的にあり参加している。実践に役立つと考えられる研修については、研修後、報告書を提出しミーティングで資料を配布し情報の共有を図っている。新人職員は、育成カリキュラムに従い、職員が1人つき、課題を達成すると次のステップに進んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	知多中南部居宅介護事業者連絡会が定期的にあり、研修や交流会などに参加している。市内に同法人のグループホームがあり交流はあるが、法人以外のグループホームとの関わりは特にないことから、今後検討していきたいと考えている。		職員が同業者との交流の機会を通じて、情報交換やサービスの質の向上につながるよう、実現に向けた取り組みの期待したい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたり契約の段階で1カ月様子を見て本人が馴染めるか否か判断する区切りの期間を設けている。その間、自由に生活していただき本人や家族の意見、考えを聞き入居の判断をしてもらっている。病院からホームに入居される場合は、病院を訪問し面談している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者の性格や癖を理解した上で、その人に合った役割を見出している。入居者から「ありがとう」と言われ、思いや気持ちを言葉で表現することの大切さを学び、日々の生活で忘れないよう心がけている。生活の知恵や工夫を入居者から教えてもらうことも多い。入居者の平均年齢が高い構成の中、すぐに職員が手を出すのではなく、本人の思いを尊重し能力を活かしてもらえよう、見守りながらできないところをそっと支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者に本人らしくホームで過ごしていただくために、本人の視点に立って全体を捉えることを大切にしている。意思表示のはっきりしている方もいれば難しい方もおり、アセスメントに力を入れ、本人や家族に協力してもらいセンター方式を用い取り組んでいる。今年の6月に“スペシャルデイ”を1カ月間かけて実施し、入居者の要望に職員が1対1で対応した。入居者にも喜んでもらい、職員の意識づけもできた。今後も年1回のペースで取り組んでいきたいと考えている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員が3～4名でチームをつくり、入居者のアセスメントを行い、介護計画を作成している。日々の申し送りで入居者の状態を把握し、ケアカンファレンスで話し合い、気づいた点や変更点があれば介護計画に反映させている。理念にもとづき、入居者の長所、よりよく暮らすための課題、生活の中でのリハビリの3つの視点に立って介護計画を作成している。家族には、家族会の時に説明し意向を聞いている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎日の申し送りで、入居者一人ひとりの状態について細かく報告し合い、ちょっとした変化も見逃さないよう努めている。毎月、担当職員が介護計画に対する入居者の状態や達成状況についてチェックしており、家族にも確認してもらっている。そして、3カ月毎に介護計画の見直しを実施している。入院している場合には、ホーム長が病院を訪問し入居者の状態を把握し計画を見直している。本人や家族の意向を汲み取りながら、現状に即した介護計画の見直しを行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>協力病院より月2回、内科医の往診がある。母体が病院であることから、専門医（神経内科、脳神経外科、リハビリテーション科など）や看護師などの協力や24時間対応可能な体制となっている。入院時は医療機関と連携をとり、入居者の状態を把握し、退院後の支援がスムーズに行えるよう取り組んでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>契約時に病院受診について家族に希望を聞いており、ホームの協力病院のほか、入居前の本人のかかりつけ医に受診することが可能である。本人のかかりつけ医へ受診する場合は原則家族に付き添いをお願いしている。受診後は、家族から報告してもらい服薬などの情報を受け記録している。月2回内科医の往診があり、歯科医の往診も可能である。毎年、市の定期健診を受け健康管理に努めている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>医療連携体制を受けており、24時間医療機関との協力体制が整っている。看取りについて家族にアンケートを実施したところ、ホームでの看取りを希望する方が多かった。看取りについての基本方針を掲げ、「意向事前確認書」や「看取り介護の同意書」について家族に説明している。意向については1年毎に確認することになっており、看取りについては、主治医や看護師も交え話し合っている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーについて担当している職員がおり、月1回のミーティングで話し合い、個人情報の保護について全員で確認し合い意識づけをしている。プライバシーについては、トイレのカーテンを取り付け、必ず閉める事への取り組みや入居者が排泄を失敗した時など、さりげない言葉遣いや対応に心がけている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人らしく過ごしてもらいたいという思いから、ゆとりのある生活を目指し、スケジュール表はつくっていない。朝寝坊する人もいれば、寝付けない時には、職員が入居者の行動に付き添うなど、一人ひとりの生活リズムを大切に、その人のペースに合わせて支援している。レクリエーションでは入居者の好きなことを行っている。正月やお盆に自宅に帰省する入居者もいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼、夕食は厨房で作っている。朝食とご飯、汁物はホームのキッチンで作っている。入居者の状況に応じて、できる事を行ってもらっている。訪問時にはテーブル拭きや後片付けをしている入居者の姿が見られた。献立は栄養士がたてており、入居者の好き嫌いにも対応している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後1時～4時半ぐらいに入っており、夕食後の入浴も対応できるよう検討している。入居者の希望の時間に入ることができるよう取り組んでおり、入浴を拒否される人には、無理強いをするのではなく楽しんで入浴してもらえよう、声かけや誘導を工夫し週3～4回の入浴を目指している。季節に応じて、ゆず湯や菖蒲湯、沐浴剤を使用するなど変化を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の無理のない範囲で体調に合わせて、洗濯物干しやたたみ、食材の皮むき、食器拭きなど行ってもらい、本人の持っている能力を活かしてもらえよう支援している。レクリエーションでは、習字やカラオケ、ぬり絵、魚釣りゲーム、散歩、ショッピングなど一人ひとりの楽しみや気晴らしに配慮した場面づくりがされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム前の道路を散歩コースとしており、1日30分～1時間くらい、本人の気持ちに寄り添いながら支援している。ほぼ毎日、隣接しているショッピングセンターへ買い出しに出かけており、外出をあまり好まない人も気分転換に誘い、入居者に偏りが無いよう配慮している。ショッピングセンターの店員と顔馴染みになり、声をかけてもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階には病院が併設され、2、3階がホームであることから階段部分の扉は施錠している。各居室については、施錠を希望する人に対応している。エレベーターの前にはアコーディオンカーテンが設置され、目隠しになっている。エスケープの対応基準として、30分経っても見つからない場合は、警察に連絡するよう取り決めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年1回実施しており、今年は11月1日に消防署の協力を得て、敷地内の併設施設と共に実施した。入居者の参加はなかったが、職員がマニュアルに沿って行動し、消火訓練を行った。入居者の平均年齢、介護度が高い構成であることから、消防署より避難時の指導を受けている。備蓄品は食料品類など3日分ほど用意している。		避難訓練を定期的実施しており、昼間だけでなく、夜間を想定した訓練や入居者も参加しての実施、地域の人々も交えた訓練ができるよう取り組みに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一週を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は1日1 摂取することを目標としており、管理の必要な人には水分量をチェックし把握している。献立は栄養士がたてており、バランスのよい食事が提供されている。行事食や誕生日会には、入居者の要望を聞き取り入れている。食事を楽しむことを大切に、皆と同じものを食べながら、状態に合わせ量や形態を工夫している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	3階フロアには神棚や観音像が飾られている。壁面には、季節にちなんだ飾りや行事の写真、入居者の俳句、作品などが掲示されている。フロア内に対面キッチンがあり、入居者と職員が顔を見ながら作業できるようになっている。リビングの窓からは明るい日差しが入り、ソファや畳のスペースがあり、廊下にも数箇所畳張りの長椅子が置かれている。廊下の壁には職員の顔写真も掲げられている。ホームの空き部屋を利用して、昔懐かしい看板や、釜、蓄音機などを置き「回想法」を取り入れた支援も行っている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビやカセットラジオ、冷蔵庫、電子レンジ、使い慣れた家具、鏡台、椅子などが自由に持ち込まれている。全居室にコルクボードがあり、家族や曾孫の写真、手づくりの作品などが飾られ、その人らしい環境づくりがされている。部屋の片付けは、職員と一緒に取り組んでいる。入居者が分かりやすいよう、顔写真付の居室の表札や本人の名前が縫われているのれんが入口にかけられている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。